

column

本質的なテレワークを



アイシシユタインの数々の名言の中の一つに「問題を創り出した時と同じ考えでは、その問題を解決することはできない」という言葉がある。VUCA(変化が激しく、複雑で、未来が不確実)な今の時代、まさに、私達個人にも組織にも必要な考え方の前提となる言葉ではないだろうか。

「リフレクション」という言葉をご存知だろうか。一言で言うと自己を振り返る「内省力」の事である。経済産業省が2006年から提唱している「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」＝「社会人基礎力」という力があり、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力(12の要素)から構成されている。それらの力を高めていくために必要となるのが、リフレクション、つまり、常に自己を認識し客観視できるかどうかだと明記されている。(図1-1)

①② これは、人生100年時代を生きる上で必要な力であり、特に変化の激しい今の時代を生きる私達は、これまでの経験だけを頼りに物事を判断するのではなく、多様な価値観を持つ仲間と対話を重ね、客観視した自己から学び、自分自身のOSをアップデートしていくことが必要となる。私達は歳と経験を重ねれば重ねるほど、成功体験が増え、それによって、これまでのやり方が最良だと思ってしまうがちになる。そういう点では年齢や役職に関わらず、誰もがリフレクションできる力を持っている組織は、




本当の意味でイノベーションが起こせる組織と言えるのではないだろうか。

今回の世界的なパンデミックを経験した私達の働き方は、どう変化しただろうか。外出自粛要請を受けて、テレワークが一気に進んだ。そして経験してみ

図① 今までの「社会人基礎力」とは

※出典：経済産業省HP

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義。

<p>前に踏み出す力 (アクション)</p> <p>～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～</p>  <ul style="list-style-type: none"> 主体性 物事に進んで取り組む力 働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力 実行力 目的を設定し確実に行動する力 	<p>考え抜く力 (シンキング)</p> <p>～疑問を持ち、考え抜く力～</p>  <ul style="list-style-type: none"> 課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 創造力 新しい価値を生み出す力
<p>チームで働く力 (チームワーク)</p> <p>～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～</p>  <ul style="list-style-type: none"> 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力 	

「テレワークは全くうまくいかなかったから、これまで通りに戻そう」という声と、「テレワークは、可能性を秘めているからこれから一気に事業展開をしたい」と思っている」という声だ。業種や業態によって感じ方も実態も適応性も様々だと思う。ただ、このタイミングで誰もが一旦立ち止まって考えなければいけないのは、今感じているこの判断がすべてかどうか俯瞰してみるという事ではないだろうか。組織はまだまだトツプダウンで物事が動く。もちろん今回のような事態の時には、スピーディに一つひとつを判断していかなければならない。「これまで通りにいち早く戻す」という選択を優先順位の高い判断としている経営者も多いかもしれない。以前からすでに予測されている未来の中には、人口減少、自然災害やテロのリスク、テクノロジーの進化と私達の職業形態の変容、そして価値観の変化やミレニアム世代の台頭などが含まれている。しかしVUCAの時代においては、このような予測を遥かに超えることがいつ起こってもおかしくはない。だから、今回のコロナウイルスで体験した事から何を学び、今後に向けてどう準備するか、という視点を持つことが何より大事なことはないだろうか。実際に、経営者、管理職、社員の皆さんの意見を聞いてみると、テレワークをやってみての感想は、今後も継続していきたいという意見から、以前のスタイルに早く戻したいという意見まで様々だ。

